

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 1階、2階)

事業所番号	2773600479		
法人名	有限会社 アラクコーポレーション		
事業所名	グループホーム きさべ		
所在地	大阪府交野市私部南2丁目18-6		
自己評価作成日	令和元年7月18日	評価結果市町村受理日	令和元年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和元年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設16年を経て ホームを 終の棲家として 生活の支援も定着し 30名の看取りを行ってきた。これからも『最期まで 住み慣れたところで そのらしく ありのままの生活が 持続できるように支援する。職員がほとんど10年以上のスタッフで有ることを 今後も働き易い職場であるように努めていき、入居者・家族様・スタッフが 居心地の良い『家』にしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体の代表者兼管理者は、訪問看護・デイサービスや他の福祉施設に関わる中で、認知症の人を抱える家族の不安・戸惑いや介護の困難を目にして、グループホームの必要性を強く認識し、平成15年5月に当事業所を開設した。田園風景のある穏やかな環境下で、近くに寺・神社がある。利用者は普通に当たり前の生活を営み、地域の中の一員としての生活や、職員が寄り添って家庭的な雰囲気に関係性を大切に生活を送っている。職員の離職率も低く、ほとんどが長年(10年くらい)当事業所に携わっている経験を活かし、入居時から終の住処としての利用者の居場所作りや環境充実に、真摯に取り組んでいる。協力医院の連携と協力体制が構築され、利用者・家族の信頼は厚く、開設以来30名の看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
		○	3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来、理念をもつと！普通の暮らしが出来る場であるように 職員会議で毎回、確認して、日々につなげている。	「普通の生活を当たり前提供していき、最後まで自分らしく生活していく、そんな家でありたい」の理念を、玄関・各ユニットの目につく所に掲げ、毎月の職員会議で確認を行い、職員全体で共有している。理念の中にある「当たり前の自分らしい生活の支援」の実践と具現化に、管理者・職員が一体となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩や、お庭での外気欲の際は近隣の方も、ご一緒に共有の時間を過ごせるように、あいさつは、欠かせない日常としている。	地域の人と日頃から挨拶を交わし、近隣の人から毎日野菜の届け物がある。寺の行事(節分祭・盆踊り等)の誘いや、ボランティア(習字・ピアノ演奏・大正琴)の訪問があり、飛び込みで様々な楽しみ事のイベントに携わってくれる人もいる。鯉のぼりの飾り、クリスマスのイルミネーションを子ども達が見学に来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを『認知症サポーター育成フォーラム』を開催する場所として 利用していただいたりして、ホームがその場所である理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様にも参加していただき、2ヶ月ごとに、偶数月の第3木曜日を開催日としている。席上で報告、情報交換等を実施している、家族様の交流の場所ともなっている。	運営推進会議は、構成メンバー参加の下、年6回実施している。会議では、事業所の行事・現状報告を行うと共に、参加者から意見を貰っている。家族・地域住民の参加は毎回多く、多彩な顔ぶれで様々な意見交換があり、ケア向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供などについては市の担当者に連絡を取り、指導を仰いだり、疑問個所などは確認している。	市の高齢介護課・生活福祉課に、事業所の現状報告・書類提出で訪問して情報や指導を貰い、双方向的に協働と連携を取っている。毎月の市の相談員を受け入れ、グループホーム連絡会(6施設)とも密に連携を図り、ケアの質の向上を目指している。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修にいった者からの 研修議事録 報告をもとに 施設内研修にて身体拘束の悪影響などを話し合い周知できるように カンファレンスしている。	研修や勉強会を通して、身体拘束の内容と弊害について職員は理解している。かつて不審者が隙をついて侵入した事があり、玄関は施錠しているが、各ユニット間は自由に行き来できる。身体拘束適正化委員会の開催が不十分で、議事録の整備もに課題がある。	身体拘束の適正化の指針に沿った委員会の実施と議事録の整備を行い、身体拘束についてより一層習熟する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて 虐待防止に努め、毎月の業務会議の際に情報共有を張っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方が入居されていたので、その方のおかげで 成年後見人を理解できる期間となりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の思いを受け止めたくて、不安、疑問のないように 十分な説明を ご理解いただけるよう 時間を費やしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に 管理者、スタッフは 来訪された家族様に入居者の状況説明を行い、その際に 家族の要望も聞き入れ柔軟に対応している。	利用者には日々の生活の中で意見を聞き、表出が難しい人は表情や気配で把握し、職員が記入する「出来ること・出来ないことシート」を参考にしている。頻度の差はあるが、利用者全員の家族の訪問があり、その都度近況報告の際に意見を聞いている。食べ物(おやつ)の差し入れの可否や備品購入についての相談がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、より良い介護に取り組むために介護の方法などを、毎日の申し送りに変化させ連携した介護につなげている。スタッフとは個人面談を行い スタッフの思いも管理者は周知すように努めている。	管理者は、日頃から職員と意思疎通と連携を取り合い、より良いケアを目指して取り組んでいる。ケアの内容(血圧の変化、咀嚼の問題等)についての意見や問題提起は随時間き取り、対策の検討と解決に取り組んでいる。個人的な事案は随時面談して対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ライセンスに応じて昇給制度が有る為に、ほとんどの職員がライセンス向上に努力している。毎月事前に希望休を把握、長期休暇、病欠も取れる、主婦が働き易い職場を実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職段階でホーム内研修を徹底的に行い、サポートスタッフを付けて トレーニングを行っている。ライセンス向上も手当を支給し向上を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢介護課を中心にグループホーム連絡会を通じネットワークを広げ常に情報を共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、面接の中で、入居前の生活が維持できるよう、家族様からの情報を最大限に活かせるケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問い合わせ、見学の段階から家族の抱える不安苦しみ等を心から理解、打開策を模索提案し安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で 今までのサービスに代わることが ホームでできることは請負、必要ないりよサービスなどがあれば医療機関と相談して、不安のないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、調理などの家事活動を職員と一緒にいき、ともに生活し支えあう者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に代わって出来る事は職員が支援していくが、家族様にしか出来ない支援は、積極的に参加してもらう様、常日頃から呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今での生活が場所を引っ越したただけと説明し今までの交友や馴染みの関係は継続していただいている。家族様との外食や旅行は、支援方法を伝授し不安なく行っていただけのようにしている。	利用者の友人・知人・親族の訪問は頻回にある。利用者の同窓生が年末に集まる事が恒例となっている人もいる。馴染みの人からの手紙や電話の取次ぎを行い、馴染みの美容院や外食・外泊には家族が同行している。利用者がこれまで培ってきた習慣と人との関係性を大切にした支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室に閉じこもることがなく 入居者はいつもリビングで過ごし、1階・2階入居者が入交り行き来しながら 心地よい空間づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元入居者の家族も ホームを度々訪ねてくれ契約終了後も ボラチアとして ホームの行事に参加支援が 続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを受け止めること、入居者の意思の表出ができるような環境づくり コミュニケーションに日々支援の継続に努めている。	居室担当の職員が記入する「出来ること・出来ないことシート」を活かして、会話・表情・動作から利用者の思いや意向の把握に努めている。今何をしたいか、どのように暮らしたいかの要望の把握に努め、掴んだ情報は個人記録簿に記入し、職員全体で共有して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	来訪時や キーパーソンでない家族や友人からもこれまでの生活などを聞き これまでとこれからの生活に 役立てるよう 来訪時の会話に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察、記録に残し現状の把握に努め、日々の変化に気づけるホームで有りたいと日々寄り添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録から介護計画を見直し、申し送りの徹底業務会議の出の周知に努めている。	食事・排泄・水分補給・特記事項(往診内容も含む)・バイタルサイン測定等を網羅した個人記録簿を参考に、6ヶ月毎の計画作成を行っている。毎月の職員会議でのカンファレンスや、計画作成前の利用者・家族の意見及び要望を参考に、関係者全体で検討した内容の計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の希望や家族の意向をその都度確認しその時のニーズに応えることができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	『医療連携』や個別ケアに必要な事は、家族様との話し合いの中で、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々 近隣の方とは 挨拶し 畑の農作物の収穫に参加させていただいたり、お寺の行事には声かけていただいたり と ここにホームがあることを支えていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々かかりつけ医師のいる方は 入所後も継続していただき、ホームドクターは月2回の内科医師の往診、歯科医師は毎月必要な方は往診を頂いていき。年に2回の健康診断も行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、利用者16名中15名が協力医医院の内科往診(月2回)を受けている。歯科(月2回)は希望者が往診を受けている。整形外科・皮膚科へは家族が同行している。利用者の対応困難時や急変時は事業所で支援し、適切な健康・医療管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理には 毎日のバイタルチェックや 状態把握には 徹底し 看護師やホームドクターへの連絡は密に行っている。外部へ家族と受診される際は『受診票』に様子を記入し家族に渡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームからとホームドクターから情報提供を行い、退院時は病院からの情報交換、リハビリ等の見学と、退院後も切れ目の無いケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム開設以来、終末まで生活出来る様に、ご家族・ホームドクターと話し合い、方向性・看取りの同意を得ている。看取りを希望される家族様とは蜜に連絡を取り、情報の連絡に努めている。入院を望まれる方の希望も支援している。	入居時に看取りを考慮したケア内容を利用者・家族に説明し、「看取りの同意書」を交わしている。利用者の重度化・終末期の状況にはその都度家族と話し合い、意思の確認と信頼関係を築いて看取りを行っている。事業所開設以来の協力医院の医師と連携して指示を貰い、今迄30名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に面した時の応急手当は常日頃から、看護師より伝授、訓練している。その後の処置に関しては管理者、看護師、ドクターのいずれかに必ず連絡する様になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施。災害時の備蓄も毎年確認している。	年2回事業所の自主訓練を実地している。避難はしごを設置し、建物2階の掃き出し窓外のベランダが一時避難に適している。近隣住民に回覧版を通して災害時の協力を声掛けし、運営推進会議で民生委員に、地域への協力要請をお願いしている。また近隣の特養施設と緊急時の連携を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には室内研修にて周知に努め、電話での対応にも気を付けている。接遇に対しても業務会議で毎回 職員一同に周知を確認している。	人生の先輩としての利用者に敬意を払い、尊厳とプライバシーを損なわないよう配慮している。入浴・排泄時には細心の注意を払い、また日々のケアで不適切な場合は、職員間で注意し合って是正するよう、互いのコミュニケーションを密に取っている。個人情報・重要書類は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思表示を持つケアに努め 表現しやすいように2択にして自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールの中で 個人個人のペースに合わせる。昼食時に寝ていたら 時間をずらすや 寝る時間が遅いときは夜勤者とゆっくりテレビを見て就寝時間まで過ごすなどしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては外出時きれいな洋服を着てもらったり 家族様と美容院に行き好みのヘアーにしていたり今までと変わらない生活になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望のメニューをリサーチし献立に入れたり下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒にできる方は やっていただいている。	利用者の好みを取り入れた献立で、職員と利用者と一緒に調理を行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。利用者もできる範囲で下準備・配膳・盛り付け・後片付けを行っている。出前やバイキングパーティ・流しめん等で趣向を凝らし、家族と一緒に外食に出掛ける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は 記録に残し食事形態や水分のトロミアップも 個人個人に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアは徹底し、仕上げの必要な方も毎回 徹底して行っている。訪問歯科にて 口腔内のケアも 必要な方は2週間に1度受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて 排泄パターンを把握しできるだけ排泄ができるよう、トイレ誘導や声掛けに努めている。	排泄チェック表より個々のパターンを把握し、日中は事前に声かけしてトイレでの排泄を支援している。水分補給・食事・運動等で日々の身体状態を良くするよう配慮して、より良い排泄につなげている。夜間は、3時間毎の見守り時の排泄支援やおムツ・パッド交換を行い、個々に合った支援と安眠を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝 ヨーグルトをお出しし 食物繊維の多いメニューの出番を多くしてなるべく一日の活動量を取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には 入浴日(冬2回/週・夏3回/週)を決めているが本人の体調や希望にて曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。	入浴は、週2回(冬季)～3回(夏季)を基本に支援している。重度の利用者にも浴槽での入浴支援を行っている。入浴拒否者には、声掛けや職員交代、時間調整で対応している。香りの良い檜剤の入浴剤を利用して楽しむ時もある。水虫対策として、浴室用マットを1人ずつ替えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は徹底している 医師の処方どおりか確認・投薬方法の確認・分包確認・投与準備確認・投与時確認と 確認作業が手っつけしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や職歴などのバックグラウンドをの情報を元ずき やりがいや喜びを感じていただくことのできる役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて一日の活動を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様との外出は ホームの行事より大切と思い いい形で外出できる様に支援している。近所への適宜の散歩や、敷地内で栽培の野菜等の手入れ、収穫も手伝ってもらっている。	事業所は田園風景の中にあり、自然豊かな環境下に立地している。日常の外出は、近くの神社・寺・スーパー等に出掛けて、気分転換と季節感を味わっている。家族と一緒に、蒲生園・初詣・桜見物・買い物等に遠出する人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、買い物時に自ら購入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話ができるような支援をしている、携帯電話を持たれている方の充電も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者がリビングで過ごされるので、共有部分はわかりやすいように大きく掲示、季節感がわかるように、季節ごとの展示物にしたりそれぞれがくつろぎやすい空間づくりに努めている。	事業所は黄色い建屋で、広いスペースの駐車場や畑があり、野菜も栽培して収穫時には食卓に上がる。リビング兼食堂は広く・明るく・清潔で、壁面にイベント・日常の写真や習字が飾られ、季節感と家庭的な雰囲気を醸し出している。空調整備に配慮し、臭気がなく清潔だと、利用者・家族に喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係や状態を考慮して、テーブルの配置にしている。活動時や食事時の介助や支援し、入居者によっては一人でいたい方もいるので、それも考慮して居心地の良い空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。状態によって家具の配置も考慮している。	居室は毎月1部屋ずつ順番に徹底的に清掃し、臭気やカビの除去に努めている。部屋にはベッド・カーテン・エアコン・タンス・チェストが設置され、馴染みの家族写真や小物・手づくり作品(干支の飾り物)等が持ち込まれ、自分らしく居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、洗濯たみ・食事準備・配膳などできる度合いが違うので、できることを、なるべくしていただくように積極的に声掛けしている。ホーム内は安全に動き回れるように安全カーペットを敷いている。		